

有識者会議報告書（構成案）

1 必要性

(1) 学びの選択肢拡大

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 1 | 1 | ・「川を遡って、海を渡れ」という言葉があるように、新しいことを始める時は、過去の経緯を遡り、海外の事例を参考にすべき。過去の経緯を鑑みると、昔は高校まで卒業すれば十分であったため、 <u>地方自治体は高校まで関与すれば良かった。しかし、今は大学進学率が高まっていることから、大学まで一定の関与が求められる。</u> |
| 1 | 2 | ・私立大学は市場の原理が働き、近年ではマーケットのある都心回帰の傾向にあるが、それは部分最適であって、 <u>全体最適にはならない。教育の機会提供という公共の利益を考え、市場の原理では足りない部分を補うことが、国や地方公共団体の意義である</u> と考える。 |
| 2 | 3 | ・三重県の進学率の低さの要因は、既存の大学に偏りがあり、 <u>ちょうど行きたい進学先がないためではないか。三重県の大学収容力は全国最低水準である。学力の高い生徒は全国的に大都市圏をめざす傾向にあるが、三重県は立地的に転出しやすいため、よりその傾向が強い。一方、希望する大学に進学できない生徒は、経済的に負担が大きい中、進学自体を諦めてしまうのではないか。三重県にいて、学ぶ機会を逸している生徒がいるのではないか</u> という点は、丁寧に見ていく必要がある。 |
| 1 | 1 | ・ <u>県立大学が設置され、高校生の選択肢が増えることはありがたい。高校生が大学を選ぶ理由は、経済的な理由、希望する学部・学科、相応の学力など、さまざまである。三重県は、東海圏にも関西圏にも出ていきやすい</u> といった立地的な事情がある。 |
| 2 | 4 | ・ <u>県南部には、地元から出るのであれば県外へ出るという生徒が多い。県北部の生徒は、名古屋に近いので南へ来ない。県の実情を考え、県民に希望する教育機会を提供できているのかという視点は持っておいた方がよい。</u> |
| 2 | 1 | ・ <u>県内高校生のためにつくるのか、特色ある大学をつくって全国から学生を集めるのか、県立大学設置の目的によって必要性は変わる。</u> |
| 2 | 3 | ・ <u>魅力ある突出した大学と地元のための大学は、時として相反する。突出した大学は、全国から優秀な学生が集まり、結果として県内入学率が下がる。それは悪いことではないが、三重県はもともと、地元の生徒のために大学をつくるべきではないか</u> という意見から議論が始まっていることを忘れてはいけない。 |
| 2 | 4 | ・ <u>公立大学であれば、定員割れよりもむしろ全国から志願者が殺到し、県民が入学できないのではないかとリスクが大きいのではないか。地元の生徒の受け皿になり、地域のための大学になるには、いろいろな工夫が必要で、財政的・人間的な負担も大きい。そうした覚悟を持ってなお大学を新設すべきなのかが問われる。</u> |
| 1 | 1 | ・高校では全国的に国公立大学を目指すよう指導がなされており、三重県に県立大学が設置された際、 <u>全国の高校生が三重県立大学を目指すことが想定される。新しく県立大学を設置したとしても、県内入学者が2割に満たない学校となる可能性もある。</u> それは果たして、目指すべきところなのかどうか、よく検討する必要がある。 |

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|---|
| 2 | 3 | ・大都市圏での生活を経験するため、大都市圏の大学と学生を交換する制度があっても良い。 <u>大都市圏の学生と三重県の学生の双方に有意義となるように設計すれば、これからの地方の公立大学の良さが発揮できるのではないか。</u> |
| 1 | 3 | ・県外大学への進学理由として、「一度は外へ出てみたい」ことが多い。 <u>沖縄県のある大学では1年間、東京の大学で学習できる制度を設けている。</u> こうした際には、オンラインで地元とつながることができるといった使い方も可能である。 |
| 2 | 4 | ・ <u>県南部の生徒が立地場所により県内の既存大学へ進学できない、あるいは、南部から出るのであれば県外へ出ると変わらないという状況があるのであれば、県立大学をつくるよりも、その予算で県内の既存大学周辺に学生寮を整備した方が良いという考えもありうる。</u> |

(報告書の方向性)

- 三重県の18歳人口は、平成4年をピークに減少を続けているが、大学進学者は平成14年度まで増加し、その後緩やかな減少傾向となっている。今後も、18歳人口は減少する見込みであるが、大学進学率は高まっており、大学進学者は18歳人口よりも比較的緩やかに減少すると見込みであることから、地方自治体の一定の公的関与は求められる。また、教育の機会提供において、市場の原理では足りない部分を補うことは、地方公共団体の役割といえる。
- 県内高等学校卒業生(浪人含む)のうち、大学に進学した者に対する県内の大学入学定員の比率「大学進学者収容力」について、令和2年度(令和2年4月入学)の本県の数値は39.8で、全国的に見て低い水準となっている。さらに、三重県は愛知県や京都府と隣接し、大阪府にも近いことから、立地的に東海圏や関西圏に進学する傾向がある。
- 魅力ある突出した大学は、全国から学生が集まり、結果として県内入学率が低くなる可能性がある。また、公立大学ということで、全国から志願者が集まり、県内の高校生が入学できないという懸念も考えられる。
- 大都市圏での生活を経験するため、大都市圏の大学と学生を交換する制度を創設して、大都市圏の学生と三重県の学生の双方に有意義となるよう設計できれば、これからの地方の公立大学の良さが生かせる可能性があると考えられる。また、県南部の生徒が、立地場所により県内の既存大学へ進学できないなどの状況であれば、県立大学をつくるよりも、県内の既存大学周辺に学生寮を整備した方が良いという考えもありうる。

(2) 若者の県内定着

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|---|
| 2 | 1 | ・調査結果では賛成意見が多いが、反対意見にも丁寧に対応する必要がある。 <u>全国的な18歳人口の減少により、都市圏に若者が集中する「若者の偏在化」がより顕著になるため、地域の若者が進学できる大学の必要性はあるのではないか。</u> また、データからはニーズが見込まれるため、 <u>県立大学を設置したとしても、県内からの進学者は増加しないということはないと考えられる。</u> |
| 2 | 3 | ・ <u>高等教育機関は偏在が著しく、大都市圏に集中している。企業活動も同様だ。</u> その中で「 <u>地域の若者や企業を支える大学</u> 」が必要だということならば日本全体が少子化の中でもつくる意味はあるのではないか。逆にいうと、 <u>設置にあたっては県内入学・県内就職の比率や産業界への貢献度などが重要となる。</u> |
| 2 | 1 | ・ <u>大学があれば街全体を活気づかせるだけでなく、地元企業にとっても、学生と連携する機会を得られるなど、企業活動の活性化につながる。</u> 大学の設置により <u>若者が活躍する場が県内に増えることは、県にとって良いと考える。</u> |
| 2 | 4 | ・ <u>県外の学生にとって通学が難しい立地であっても、一方で、その市町で学生が下宿し、生活することで町に活気が生まれるという効果があるのではないか。</u> なお、その場合であっても、 <u>経済的負担軽減のため、県内の学生は極力通学できる立地の方が望ましい。</u> |
| 2 | 1 | ・ <u>県立大学の必要性については、魅力ある大学づくり、大学と連携した地域活性化の効果に加えて、経費とのバランス等を踏まえたうえで、検討する必要がある。</u> |
| 2 | 1 | ・ <u>県内高校生のうち、どのような層の生徒がどこに行くのか丁寧に見ていくことで、特に県立大学を強く希求する層が明らかになるのではないか。</u> <u>既存の県内高等教育機関だけでは十分に満たしきれないニーズを満たすことができれば、三重県のこれからを支えてくれる生徒が、県内で学び、県内企業に就職してくれると期待できる。</u> |
| 2 | 2 | ・ <u>大学在学中に地域の魅力に触れる、地域と強い繋がりを持つ、県内企業と共同研究するなどにより、卒業後の県内就職につながる効果はあると考えられる。</u> |



(報告書の方向性)

- 全国的な18歳人口の減少により、都市圏に若者が集中する「若者の偏在化」がより顕著になるため、地方の若者が進学できる大学の必要性はあると考えられる。また、高等教育機関や企業が大都市に集中する中で、地域の若者や企業を支える大学が必要だということならば日本全体が少子化の中でもつくる意味はある。
- 地域に大学があれば地域全体を活気づかせるだけでなく、地元企業にとっても、学生と連携する機会を得られるなど、企業活動の活性化につながる。
- 地方の大学の学生が、大学在学中に地域の魅力に触れる、地域と強いつながりを持つ、県内企業と共同研究するなどにより、卒業後の県内就職につながる効果はあると考えられる。

(3) 高校生等のニーズ

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|---|
| 2 | 1 | ・調査結果では、高校生、保護者ともに「進学先の候補として考える」を選んだ割合が多く、また、その理由として「学費が安いイメージ」、「自宅から通える」が上位にあることから、県立大学は経済的な負担を最小限に抑えて進学できるという観点で一定の必要性はあると思われる。〈重複〉 |
| 2 | 1 | ・大学が必要かと問われれば、 <u>あった方が嬉しいと回答するのは当然であるが、調査結果から一定のニーズは読み取れる。地元に残りたいが受け皿がなく、結果的に希望がかなわない生徒がいるのではないかと考えられるため、そういった観点から、大学をつくるべきかどうか議論を進めることは良い。</u> |
| 2 | 1 | ・高校生へのアンケート調査結果からは、 <u>県内では自分の希望を十分に満たせず、県外に転出する生徒がいることが読み取れる。特に、志が高い生徒ほど自分の希望を懸命に考え、県内にはその希望を満たす進学先がないために、県外へ転出するケースが多い。</u> |
| 2 | 4 | ・マイナス面では、2点指摘があった。1点目は、 <u>18歳人口が減っていく中でニーズがあるのかという問題である。この点については、全国的に見て国公立大学のニーズは高く、それほど心配はないのではないかと考える。</u> もう1点は、 <u>財政的な問題である。県有地や現在ある施設を活用するといった初期費用を抑える工夫も含め、精査が必要である。ベースは定員と学部である。大学設置基準や財政面もふまえた検討が必要である。</u> |
| 2 | 1 | ・県内には、 <u>工学系や理数系を希望する生徒が進学できる大学が少ないため、設置学部の候補となるのではないかと考える。</u> また、 <u>入学時には就職を意識していない生徒も多いため、大学から自分の進路を選ぶことができるリベラルアーツのような学部があれば良いと考える。</u> |
| 1 | 1 | ・90年代以降、公立大学の設置が増えている。しかし、 <u>設置するだけでなく、大学として維持していくには、マーケットを見据え、学生が学びたい領域のデータもあった方が良い。</u> |
| 1 | 1 | ・県内高校生が県外へ転出するのは、 <u>希望する大学や学部がないからなのか、その他の要因があるのかについて、調べた方が良い。</u> また、 <u>県立大学を設置するのであれば、どのような若者のために、どのような教育をするのか検討する必要がある。</u> それらがきちんと議論されるのであれば、 <u>公立大学が増えること自体は、社会からみれば悪いことではない。</u> |
| 1 | 1 | ・県内高校生が県外へ進学する理由が大学進学者収容力にあるのか判断するためには、 <u>県内高校生がどういった大学へ入学しているのかを調べる必要がある。</u> また、 <u>県内大学の志願倍率や定員充足率の推移はどうなっているのか、県内大学の需要がどれくらいあるのかについても調べる必要がある。</u> |
| 2 | 1 | ・アンケートでは「どうしても必要だ」という意見と「あってもいいかな」という意見が、 <u>どちらも「必要である」という項目に含まれてしまう。</u> アンケートだけで、ニーズがあると解釈するのは危険である。 |

(報告書の方向性)

- 高校生・保護者を対象とした「学びの需要調査」では、生徒の回答は「進学先の候補として考えない」、「進学先の候補として考える」が拮抗しているものの、実数を見ると4千人を超えている。また、保護者は「進学先の候補として考える」割合が8割を超えており、一定のニーズがあり、県内からの進学を期待できる。一方で、県内では自分の希望を十分に満たせず、県外に進学する生徒がいることが考えられる。
- また、18歳人口が減っていく中で需要に対する懸念はあるが、全国的に見て国公立大学の需要は高く、今回の「学びの需要調査」でも、生徒、保護者とも「国公立」を選択した割合が最も高い。
- 県内には、工学系や理数系を希望する生徒が進学できる大学が少なく、大学から自分の進路を選ぶことができるリベラルアーツを学べる学部があれば良いと考えられる。「学びの需要調査」や「県内高等学校卒業生の進路先調査」から、希望度が高い専門分野、実際の進学先とも「工学」、「商学・経済学・経営学」の希望が高かった。

(4) 経済的負担

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 1 | 2 | ・ <u>国公立大学は学費が安く抑えられるため、経済的な面で進学が難しい生徒に教育の機会を提供できる。更に、県外での1人暮らしはかなり経済的に負担が大きい</u> が、 <u>県内に大学があれば通いやすく、負担も少ない。</u> |
| 2 | 4 | ・ <u>県では通学時間の長さはある程度受け入れられており、学生に意欲さえあれば、通学についてはそれほど心配しなくていいのではないか。仮に下宿するとしても、大都市圏と三重県内では、経済的負担はかなり異なる。</u> |
| 2 | 3 | ・ <u>三重県の大学進学率は全国と比べて低い</u> が、 <u>本人が希望しないので進学しないのか、親の経済状況により進学できないのか。進学したい希望があっても県内では進学できず、県外では生活費の負担から進学できない生徒もいるのではないか。</u> 生徒自身の努力も必要だが、学ぶ意志のある生徒には、 <u>学ぶ機会を与えてあげてほしい。</u> また、 <u>4年間で本当に実力がつく大学でなければ進学する意味がない。</u> |
| 2 | 1 | ・ <u>調査結果では、高校生、保護者ともに「進学先の候補として考える」を選んだ割合が多く、また、その理由として「学費が安いイメージ」、「自宅から通える」が上位にあることから、県立大学は経済的な負担を最小限に抑えて進学できるという観点で一定の必要性はあると思われる。</u> <重複> |
| 2 | 3 | ・ <u>コロナ禍で、親の経済状況の悪化により、学費を工面する力が弱くなっている。</u> そうすると、 <u>地方の学生の学ぶ機会が一層減ってしまう。</u> |

(報告書の方向性)

- 国公立大学は学費が安く抑えられているため、経済的な面で進学が難しい生徒に教育の機会を提供でき、また、県外での一人暮らしはかなり経済的に負担が大きいが、県内大学であれば通いやすく、負担も少ない。
- 「学びの需要調査」において、生徒・保護者とも、「国公立」を志望する理由は「学費が安い」が最も多く、「進学先の候補として考える」理由も「学費が安いイメージ」、「自宅から通える」が上位にあることから、県立大学は経済的な負担を最小限に抑えて進学できるという観点で一定の必要性はあると思われる。
- また、今後も新たな感染症など想定外の事態により経済状況が悪化する懸念があるため、将来の学生・保護者の経済的な負担を考慮しておく必要がある。

2 有効性

(1) 人材育成・人材供給

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 1 | 1 | ・海外の事例でいうと、アメリカでは、一つの州に複数の州立大学が設置されており、 <u>手厚い教育により人材を育成し、地元企業に人材を供給する役割を果たしている。</u> その意味からも、 <u>県立大学については検討の余地がある。</u> |
| 1 | 1 | ・県内企業の社長によると、三重県に残って就職する学生は、語学力と気力が十分ではない学生が多いとのことである。 <u>優秀でやる気のある学生は県外の大学へ進学し、県内に残る穏やかな学生では、企業の中核を担える人材が少ない。</u> 全体としてそのような傾向が見受けられる。 |
| 1 | 1 | ・県立大学を設置するのであれば、 <u>どういう学校にして、どういう学生が通ってくれたらよいのか、検討する必要がある。</u> <u>県外出身の学生であっても、県内で育ち、県内企業に就職してもらえる大学であってほしい。</u> |
| 2 | 4 | ・ <u>県の産業界からは、共同研究や人材供給、リカレント教育や事業承継、一次産業の大規模化をしていくための人材育成が求められている。</u> <u>県立大学をつくるのであれば、そういったニーズを丁寧にくみあげて、大学の在り方や機能について考える必要がある。</u> |
| 1 | 3 | ・現在の高校生の進学ニーズを見ると、たとえば医療系の分野を希望する方は多い。だが、 <u>県とした見た時に、医療系大学だけをつくっていいののかという問題がある。</u> <u>県が育成をするのであれば、産業を新しく興すような、県が必要とする人材ではないかという考え方もある。</u> |
| 2 | 2 | ・ <u>企業と学生が接点を持つことは、企業にとって刺激があるだけでなく、学生にとっても就職してからの自信につながる。</u> 今の学生は大人と関わる経験が少ないため、 <u>就職してから戸惑うことも多い。</u> <u>地元企業や地元の組織・団体と学生が接点を持つことは、双方にとってメリットが大きい。</u> |
| 1 | 3 | ・ <u>大学には、社会と学生をつなげる意義がある。</u> 大学だけでなく、 <u>社会や高校の関わりを議論していくと良い。</u> |
| 2 | 2 | ・ <u>大学が提供するカリキュラムを他の大学の学生や社会人が受講でき、大学院生として受け入れてくれるような大学であれば、さらに地域が活性化するのはではないか。</u> |

(報告書の方向性)

- 県立大学が地方で手厚い教育を行うことにより人材を育成し、地元企業に人材を供給する役割を果たすことが期待できる。また、企業の中核を担える人材が育ち、県外出身の学生であっても県内で育成されて県内企業に就職につながる大学が望まれる。
- 県内では、県の経済界から、共同研究や人材供給、リカレント教育等が求められることから、そういった要請に応えることができれば、県立大学の役割はある。また、県の産業政策の推進につながる人材育成を行う必要がある。
- 大学には学生と県内企業等をつなげる役割があり、学生にとっては就職してからの自信につながり、県内企業にとっては刺激が生まれて、双方にとってもメリットがある。
- 大学が提供するカリキュラムを他大学の学生や社会人が受講でき、また大学院生として受け入れる大学であれば、地域の活性化や学び直しにつながる。

(2) 地域課題解決

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|---|
| 1 | 2 | ・ <u>三重県で学ぶことの優位性は、三重県というフィールドを教育の場に行きとあると考える。三重県を、社会の最先端の課題を解決するリアルなフィールドの場として開放していく。県として、県内産業をこうしていきたいという方針と連動することも可能である</u> と考える。 |
| 2 | 3 | ・ <u>地元性を生かし、さらに突出した大学とするには、実践の場での学びが必要である。地域のための大学は、地域に閉じているわけではない。三重県の企業、行政は全世界に通じている。三重県の地域課題の解決は、日本の課題解決につながるかもしれない。</u> その意識を持ちながら、さらにオンラインで、海外も含めた他大学と連携しながら本当に必要な教育を受けられる大学であるべきではないか。 |
| 1 | 2 | ・ <u>県立大学と県立高校の関係性があれば、産学連携の中で高校もつながるように、地域内で研究の成果が還元する教育の仕組みなどがあれば良い。</u> |
| 1 | 2 | ・ <u>大学の設置以外においても、県ができることはたくさんあると考える。高大の教育の質を上げていく、マッチングできるような仕組みづくりの旗振り役なども、そのひとつである。そのような学びの仕組みづくりは個々の大学・高校ではできない。</u> |

(報告書の方向性)

- 県立大学は、三重県というフィールドを教育の場として活用でき、リアルな課題解決の場としつつ、県の政策とも連動して実践的な教育を行うことができると考えられる。
- 地域に密着した大学は、地元性を生かして、地域を学びの実践の場として、地域課題の解決を行うことができると考えられる。
- 県立大学と県立高校との関係性があれば、産学連携の中で高校もつながるように、地域内で研究の成果が還元するしくみをつくることも考えられる。

(3) 県内高等教育機関等への波及効果

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 1 | 2 | ・ <u>県立大学ができたことで、周辺の私立大学にも良い影響があり、その大学に行けなかった生徒にとっても良い効果がある、そういった大学ができるのであれば意味がある</u> と考える。 |
| 1 | 2 | ・ <u>県立大学の設置により、地域全ての大学に良い効果を生み、地域の学生のやる気・モチベーションを上げてくれるような大学となってほしい。</u> |
| 2 | 2 | ・ <u>県立大学の果たす役割を大きくとらえ、県立大学に入学した学生だけでなく、地元の他の大学やその学生、地域の高校生や企業に対しても広くプラスの影響を与えることができるのなら、県立大学をつくる意義はある。</u> |
| 2 | 2 | ・ <u>大学があることの経済効果は大きいですが、それだけでは不十分で、設置により地元の高中生や他の大学が活性化されるような大学であることが理想である。公立大学の 신설によって県内の私大が淘汰され、結果的に地域の受け皿が減るようでは本末転倒だ。地域にフォーカスした学修や研究、企業連携のほか、地域の他の大学への進学理解にもつながるような探究学習の提供や、他大学と連携した地域の経済活動に資する授業の開講など、さまざまな方法が考えられる。</u> |

(報告書の方向性)

- 県立大学の設置により、県内高等教育機関や県内学生へ良い効果があれば、意味があると考えられる。また、県立大学が、県立大学に入学した学生だけでなく、地域の高校生や企業に対しても広くプラスの影響を与えることができるのなら、つくる意義はあると考えられる。
- 県立大学が、地域にフォーカスした学修や研究の実施、企業との連携のほか、県内高等教育機関への進学理解にもつながるような探究学習の提供や、県内高等教育機関と連携した地域の経済活動に資する授業の開講など、さまざまな取組を行うことが考えられる。

(4) シンクタンク機能

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 2 | 2 | ・ <u>県立大学であれば、県の政策を考えていくシンクタンク的な役割を担うべきである。そのような意識を持った教育は、リアリティを持って産業界と協力でき、学生にとっても面白くなると思う。</u> |
| 2 | 3 | ・ <u>どのような県立大学ならつくるべきかの基軸は3つある。1つ目は、やる気と主体性、行動力がある学生を育成するために、アクティブラーニングのような参加型の授業をなるべく多く取り入れること。2つ目は、地元の産業界や団体も巻き込み、協力を仰ぐこと。3つ目は、政策提言を行うシンクタンク機能を持つこと。</u> 補足として、他県や世界の学生と交流し、オンラインをうまく取り入れ、教員や学生にとってオープンな学校にすることも大切である。〈重複〉 |

(報告書の方向性)

○県立大学であれば、県の政策を考えていくシンクタンク的な役割を担うことが考えられる。そのような意識を持った教育は、リアリティを持って産業界と協力でき、学生にとっても興味をかき立てられると考えられる。

3 あるべき姿

(1) 学生・県民への意義

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 1 | 1 | ・進学できる定員を増やす意味で大学をつくるのであれば、やめた方がよい。子どもは、情報さえあれば、自分で良い大学を選んで進学する。 <u>学生のための大学、学生の将来のためになる大学であれば、つくる意義がある。</u> |
| 2 | 1 | ・ <u>県民のための大学にできるかどうかは、県民の期待に応えられる県立大学をつくり、維持できるのか</u> 、また、コスト以上の効果を地域にもたすことができるのかといった、突き詰めた議論が必要である。 |
| 1 | 1 | ・ <u>大学をつくるには哲学がなくてはいけない。</u> どのような哲学をもって、どのような大学をつくるのか、明確にしていく必要がある。 |
| 2 | 3 | ・ <u>これからの時代に生きる子どもたちのために、どういう大学にしたらいいのかを徹底的に議論し、大学が持つ哲学を明確にし、これを県民の皆さんと共有して、実行するのであれば、県内高校生の受け皿になるだけでなく、県外の学生にとっても魅力となり、県に定着してもらえるのではないか。</u> |
| 2 | 3 | ・ <u>県外からの志願者にとっても魅力ある大学となるよう、他の公立大学で取組の少ない独自性のある教育内容（教育活動）も盛り込み、特色化を図る必要があるのではないか。</u> |
| 1 | 1 | ・大学を設置するかどうかではなく、 <u>どういう大学なら新設する価値があるのか、具体的な条件をあげていき、最終的にどういう大学なら設置すべきなのかを決めていくべきである。</u> |
| 2 | 2 | ・ <u>今、大学は、社会からその在り方を問われている。大学のこれからの在り方を踏まえた新しい構想の大学というものを考えるべきではないか。</u> |
| 2 | 4 | ・ <u>県立大学の設置の是非を判断するには、マイナス、ベース、プラスをきっちりと整理して検討する必要がある。</u> |
| 2 | 4 | ・ <u>これからの大学の設置は、不利な条件から始まると考えておかなければいけない。それでも設置するならば、これからの新しい大学像を見据え、これからの教育を引っ張っていくという覚悟を持つ必要がある。</u> |
| 2 | 4 | ・ <u>県立大学の設置は慎重に行うべきであるが、検討に値するのではないかと考える。どのような大学とするのかというような絶対に踏まえておかなければならない項目を、データを示しながら整理し、次年度の議論に資するよう提言したい。</u> |

(報告書の方向性)

- 学生や県民の期待に応え、学生のための大学であり、県民のための大学である必要がある。
- これからの時代に生きる子どもたちのために、大学が持つ哲学を明確にし、県民の皆さんと共有して実行するのであれば、県内高校生の受け皿になるだけでなく、県外の学生にとっても魅力となり、県に定着してもらえると考えられる。
- 大学のこれからのあり方をふまえて、特色のある大学をつくることが考えられる。

(2) 地元企業等の連携

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|---|
| 1 | 3 | ・大学でも、地方創生の議論がある。他の学部の方員を削減して地域に貢献する学部をつくる大学があるが、うまくいっていないことも多い。将来的に地域での新規産業の創出をめざすにしても、既存の産業とどう連携していくのか考える必要がある。 |
| 2 | 2 | ・県北部は製造業が順調だが、産業構造の変化への対応が求められており、県南部では過疎化と高齢化が進んでいるが、素晴らしい地域資源に恵まれている。大学に求められることも多く、産業連携のしやすい地域である。クロスアポイントメント制度を使い、地元企業の社長を教授として迎えるなど、地域を巻き込んださまざまな方法が考えられる。 |
| 2 | 1 | ・本質的な課題は、県立大学を設置しても就職時に学生が県外へ流出してしまう可能性があることである。そのため、学生と地元企業との結びつきを高める必要がある。 |
| 2 | 3 | ・どのような県立大学ならつくるべきかの基軸は3つある。1つ目は、やる気と主体性、行動力がある学生を育成するために、アクティブラーニングのような参加型の授業をなるべく多く取り入れること。2つ目は、地元の産業界や団体も巻き込み、協力を仰ぐこと。3つ目は、政策提言を行うシンクタンク機能を持つこと。補足として、他県や世界の学生と交流し、オンラインをうまく取り入れ、教員や学生にとってオープンな学校にすることも大切である。＜重複＞ |
| 2 | 2 | ・地元との密着度の高い県立大学の設置を検討しているのであれば、インターンシップの受入れ見込みや研究面での産学連携の可能性など、地元企業との連携方法や、設置後の県のサポートも含め、綿密に考えておく必要がある。 |
| 2 | 1 | ・地方創生の観点から、若者の県内定着を目的とした教育機会の創出を検討するならば、県立大学卒業生をどういうところに就職させたいのか、また就職の見込みがあるのかという点についてさらに詳しく調べる必要がある。 |
| 2 | 2 | ・20年後、30年後まで見据え、大学が存続できるのか、大学設置・学校法人審議会では厳しく審査されている。県の18歳人口がどうなっていくのか、地元から転出した人がどれだけ戻ってきているのかといったこともしっかり調べておく必要がある。 |

(報告書の方向性)

- 将来的に地域での新規産業の創出をめざすにしても、既存の産業との連携を考えておく必要がある。また、三重県内では大学に求められることも多く、産業連携のしやすい地域であるため、例えば、クロスアポイントメント制度を活用し、地元企業から教員として迎えるなど、地域を巻き込んださまざまな方法が考えられる。
- 県立大学を設置しても就職時に学生が県外へ流出してしまう可能性があるため、学生と地元企業との結びつきを高める必要がある。
- 地元との密着度の高い県立大学の設置をめざすのであれば、インターンシップの受入れや就職の見込み、研究面での産学連携の可能性など、大学と地元企業との連携、産業政策等での県によるサポート体制を構築しておく必要がある。

(3) 実践的な教育

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 2 | 2 | ・東北大学で今年度から、全学共通科目で初年次・2年次を中心に、 <u>地元企業を招いて学生にディスカッションさせる「社会体験ワークショップ」を行っている。</u> |
| 2 | 2 | ・県立大学の役割として、 <u>自分から主体的に動ける学生を地元にとどめるために、全学共通科目で初年次から、学生と地元企業が接する機会を創出し、現在の大学ではまだ少ないアクティブラーニング系の授業を体験させることが有効である</u> と考える。 |
| 2 | 3 | ・どのような県立大学ならつくるべきかの基軸は3つある。 <u>1つ目は、やる気と主体性、行動力がある学生を育成するために、アクティブラーニングのような参加型の授業をなるべく多く取り入れること。</u> 2つ目は、地元の産業界や団体も巻き込み、協力を仰ぐこと。3つ目は、政策提言を行うシンクタンク機能を持つこと。補足として、他県や世界の学生と交流し、オンラインをうまく取り入れ、教員や学生にとってオープンな学校にすることも大切である。〈重複〉 |
| 1 | 3 | ・単に大学で学ぶ学生を、高校から進学した生徒だけに限定する必要はない。 <u>リカレント教育にとっては、オンラインは有効である。多様な人が集まり、それらの人々をかき混ぜる場として、全く新しい理想的な大学をつくってほしい。</u> |

(報告書の方向性)

- 主体性、行動力がある学生を育成するために、アクティブラーニングのような参加型の授業をなるべく多く取り入れることが有効である。その場合、例えば、地元の企業を巻き込んだ実践的な教育が必要である。
- 大学に多様な人が集まり、それらの人々をかき混ぜる場として、大学教育が行われることも考えられる。

(4) 地域枠

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 1 | 1 | ・通学のしやすさを考慮すると、県外出身の学生が多くなり、結果として県内の学生が行けない大学になってしまう可能性がある。それであれば、通学が不便な土地であっても、寮などの設備を備え、一定の地域枠をつくるという方法もある。どのようなイメージの大学を設立するのか、しっかり議論することが必要である。 |
| 1 | 1 | ・魅力的な大学であればあるほど、県外から進学する学生も多くなる。地域枠で入学した学生が、地域に戻り活躍しているという現実もある。地域枠の必要性を検討することは良いと考える。 |

(報告書の方向性)

○東海圏等からの通学の利便性や大学の魅力度合いによっては、県外出身の学生が多くなる可能性もあるため、地域枠の設定の必要がある。

4 その他留意事項

①議会

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 1 | 2 | ・また、議会の承認がおりないと県立大学に予算が配分されないため、 <u>議会への説明責任を果たし、成果を示すことが重要である。</u> |
| 2 | 3 | ・将来の県の大学進学率や18歳人口の推移を見据えて、大学の規模を決めていかないと、定員割れとなるのではないか。また、 <u>県立大学に対する多額の支出を議会から認めてもらえるのか、あらかじめ考えておく必要がある。</u> |

②費用負担

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 2 | 3 | ・県立大学の役割と効果について、 <u>事前に費用対効果をどの程度見込むのかを十分に検討しておく必要がある。</u> |

③規模の経済

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 1 | 1 | ・小規模な公立大学では統合をしたり、国立大学と連携をしたりして、規模の経済を働かせている。 <u>どのくらいの規模であれば大学として成立するのか、調べたほうがよい。</u> |
| 2 | 3 | ・ <u>規模の小さい大学では、どのようにすれば規模の経済を働かせることができるのかという検討も必要である。</u> 国立大学同士で同一法人になるケースや国立大学と県立大学が設置形態を超えて連携する事案が起きている。 |

④立地

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|--|
| 2 | 4 | ・三重県は南北に長いことから学生が <u>通学しやすく、かつ高等教育機関がないために進学を諦めているような高校生たちにとって、メリットになる設置場所の検討が重要である。</u> |

⑤教職員

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|---|
| 1 | 2 | ・都道府県の中には大学に関わる部署がなく、大学のことを分ける職員がいない県がある。法人化するののかも含め、 <u>大学を維持していく職員をどうするかをよく考えておくべきである。</u> |
| 1 | 3 | ・ <u>オンライン授業は、移動に時間がかからない利点がある。</u> 先生によっては十分な教育効果がある。また、 <u>オンライン授業が可能であれば、三重県でも努力次第で良い教員を集めることが可能である。</u> |

⑥オンライン

| 回 | 論点 | 委員意見 |
|---|----|---|
| 1 | 3 | ・オンラインだけでは人材育成はできず、どのように対面の場をつくっていくかが大切。特にモチベーションが低い学生にとっては、オンラインだけで教育することは難しい。 <u>オンラインと対面の組み合わせを考えて活用していく必要がある。</u> |
| 1 | 3 | ・オンラインには、 <u>いろいろな教授の講義が聞けるという利点がある</u> 一方で、学生同士の交流の時間、責任なく楽しく過ごす時間がなくなってしまふ。学生たちをどうやって大人に育てるのかという視点では、 <u>オンラインだけでなく、現実とつなぎ合わせて育成することも重要である。</u> |
| 1 | 3 | ・高校でもオンライン授業を実施しているが、 <u>現場の空気感を感じながら授業を聞くことも大切であり、バランスが大事である。</u> |

(報告書の方向性)

- 議会には、説明責任を果たし、成果を示すことが重要である。
- 県立大学の設置には、大きな費用負担が伴うため、事前に費用対効果をどの程度見込むのかを十分に検討しておく必要がある。
- 大学設置が可能となる規模を押さえておくとともに、規模の経済を働かせることができるのかという検討も必要である。
- 三重県の地理的な条件等を考慮して、学生にとってメリットのある設置場所の検討が必要である。
- 大学を運営していくための職員の確保が必要である。また、オンライン授業が可能であれば、優れた教員を集められる可能性がある。
- オンライン授業には多種多様な講義が聞けるという利点があるので、対面授業と組み合わせて実施することで、学生に効果的な授業を提供できる可能性がある。